

スタンプ制単発講習会が始まりました

労山大阪府連教育遭対部長 中川和道 20160615

労山大阪府連第 54 回総会（2016/3/13）の議論をふまえて、スタンプ制単発講習会の記念すべき第 1 回が 5 月 11 日に始まり、第 2 回も行われて年間 30 回開催へといよいよ本格的始動となった。第 1 回は中級登山学校の座学「気象 1」を公開していただき中級登山学校受講生 12 名にスタンプ講習会受講生 22 名が加わって実施され、記念すべき第 1 回の講師は山本賢治さん（このはな山の会）が務められた（写真 1）。当日はスタッフも含めて 40 名近い人々が集い、会場は熱気に包まれた。



図 1. 第 1 回スタンプ制単発講習会 20160511 講師 山本賢治さん.

第 2 回は「『山岳地形と読図』入門編座学」が 6 月 14 日に行われ（写真 2）た。主講師は大西清見さん（泉州労山）。会場は受講者 34 名スタッフ他 10 名の熱気でいっぱい。教育遭対部部員の辻本亨弥さん（大阪ぼっぼ会）の言葉どおり「新しいことを始めるのはわくわくしますね」そのものの雰囲気であった。



図 2. 第 2 回スタンプ制単発講習会 20160614 講師 大西清見さん

本稿では、スタンプ制単発講習会という新しい試みが始まった現時点をとらえ、その発足の背景や位置づけ、理念などについて論点をまとめて記録にとどめ今後への発展を展望したい。

1. スティーブ ロング氏が原点：Web 入力での講習会申込み

2010 年 5 月に来日した英国登山リーダー教育機関 MLTUK の Steve long 氏が行った大阪講演のなかで、リーダー教育課程とその Validation（維持と再評価）システムを紹介された。その迫力に中川は圧倒された。彼は MLTUK で盛んに行われている講習会の盛況な様子を写真で紹介された。会場で中川はその運営をおたずねしたら「Web 入力で参加者をつのる」とのお答え。いつの日か大阪でもやってやるぞと心に決めた。今回それが 6 年たって実現した。教育遭対部の木村治朗さん（泉州労山）がその方面に明るく、労山大阪府連のホームページの「教育遭対部」のページに Web 入力でスタンプ制単発講習会の申込み

システム (<http://osaka-rousan.com/kyouikusoutai/>) を作成したのである。

2. スタンプカード

名刺サイズのスタンプカードには科目と日付や講師のスタンプが記入され、到達点がひと目で分かり学習の励みとなる。図3は中川のカード。記念碑的な第1回のスタンプをいただいた。小学校のラジオ体操のスタンプを思い出して楽しかった。

このカードは1年更新になります。翌年のカードに受講済みの同一講座があった場合はスタンプを押印させていただきます。

再発行には手数料をいただきます。紛失にご注意ください。

万一このカードを拾得された方は、お手数ですが下記までご連絡をお願いいたします。

大阪府勤労者山岳連盟 06-6972-2057

大阪府勤労者山岳連盟

**単発講習会
スタンプカード**

2016年度

所属会	OWCC	
会員番号	60000	氏名
		中川 和道

種別	講座名	承認	日付
入 座	遭難事例研究		/
リ 座	遭難事例研究		/
入 座	山岳地形と読図		/
入 実	山岳地形と読図		/
リ 座	山岳地形と読図		/
入 座	テーピング		/
リ 座	テーピング		/

種別	講座名	承認	日付
入 座	登山と気象 (夏山)		5/11
リ 座	登山と気象 (夏山)		/
入 座	登山と気象 (冬山)		/
リ 座	登山と気象 (冬山)		/
入 座	ハイキングレスキュー		/
入 実	ハイキングレスキュー		/
リ 実	ハイキングレスキュー		/

図3.スタンプカードの表(上段)と裏(下段)。美しいカラーである。

3. 科目の実際

スタンプ制のヒントは、上記のステーブ ロング氏の2010講演の他、ボーイスカウトからも拝借した。ボーイスカウトでは、キャンプや諸活動に参加するとスタンプを押してもらい、それを学習の励みや到達度の目安にする。

労山大阪府連では、2016年度には図3に示す14科目を2回ずつ合計28回程度の開講を目指してスタートした。

「種別」として座学と実技、入門編とリーダー認定とに分けた。入門編は参加すれば自動的にスタンプがもらえる。リーダー判定では、例えば遭難事例研究や気象では事故の分析レポートをあらかじめ提出して講習会に臨み受講者5名程度でレポートの発表と討論を行う。レポートと討論の到達度を判定してリーダーOKとなればリーダー判定スタンプをもらえるというものである。5名程度でないと議論が出来ないのが悩みである。

4. スタンプ制単発講習会の位置づけ

(4-1) 教育システムにおける位置づけ：「単発」にこめた意味とリーダー登山学校

登山学校と単発講習会には大きな違いがある。登山学校は登山の広い分野ををらんで系統的でありそれ故に長期間(数ヶ月から数年間)となる。大阪府連の登山学校は仲間づくりにも重点がおかれ第〇〇期ハイキング修了生で新たな会をつくるという場合も見受け

られ大阪府連の活気の源である。一方、講習会は特定の種目に特化して1回かぎりあるいは数回のみの講習会を「単発」で行うことが多い。すなわち特化集中・非系統的・仲間づくりの要素なしという特徴がある。スタンプ制「単発」講習会の呼び名ではこの特徴の意味合いを込めて「単発」とした。スタンプ制単発講習会では登山全般を系統的に網羅する組み立てになっておらず、全般的な力を身につけることを期待してはいけない。単発講習会は、登山学校卒業生が特定の科目をもう一度聞きたいとか、現在の労働環境のもとでは登山学校にはとても入学できないとのでせめて単発で利用したい、新しい技術に触れてみたい、などのときに威力を発揮する。

大阪労山ニュース2016年1月号Voice(中川)で述べたように、大阪労山の現状では、登山全般の系統的な力を身につけるメンバー教育・新人教育は山岳会でやるのが本来であり、連盟の登山学校がやるべきなのは会の教育をになうリーダーの養成を直接目指すリーダー学校である。高齢化が進んだため新人教育メンバー教育を担うリーダーがいなくなった会や、ハイキングセミナーから出発してハイキングを発展させたのでもう少し高度な登山を目指したいがリーダーがいない会など、リーダー養成あるいはリーダー獲得によって向上が期待できるからである。

ことは会の教育力に関するだけでなく山行管理にも関係する。高齢化や目標の高度化などのため会での教育が不可能となった会員をメンバー教育登山学校に派遣すると、会としてはその会員の山行力量を把握できなくなる。会の山行管理からはずれ計画書をフリーパスでおす「特別な会員」が長期化すれば、会の存立意義や特別基金という会での承認にすき間が生じることになりかねない。会の教育力がないから他人に教育を委ねる場合には、その登山学校入学の時点から他の会に移る可能性も十分に踏まえその会員の新しい門出として祝って送り出すか、その会員にリーダーとして帰ってきてもらい新たな山行部門を立ち上げる(講習会や学校のメンター制導入を契機に)か、会の執行部の度量と実力が問われるのである。教育を安易に外部委託するべきではない。

以上を踏まえ、大阪府連教育連対部では「リーダー学校+単発講習会」という教育システムを構築しつつある。リーダー学校としては、老舗の中級登山学校(第38期)、新進気鋭の統合初級アルパインリーダー学校(第3期、大阪労山ニュース2015年6月号参照)に加え、今年度2016あるいは来年度に夏山縦走リーダー学校、冬山縦走リーダー学校の発足に着手した。長い歴史をもち仲間づくりに重点をおく夏山ハイキングセミナー、冬山ハイキングセミナー、女性のための登山教室は従来から組織部が所掌して活発に活動中で大きな成果をあげている。

(4-2) 会や登山学校の教育システムとの関連

連盟のスタンプはいかなる力をもつものかを考察する。大阪府連盟には大きな会のみならず中小の会でも独自の教育システムをもって頑張っておられる会が少なからずあり、連盟の多くの会が上記の危機にある中で、心強い現状でありよりどころである。それらの会や学校では独自のスタンプをもっておられる。それぞれの会や登山学校の教育システムと連盟の教育システムに上下関係はあるのか?どちらがオーサライズされるのか?自分たちのスタンプはやがて無効とされるのか?との不安やご意見を2月の代表者会議3月の総会など以来いただいていた。ありがたいご意見である。

中川の考えでは、大阪府連全体としての教育の主体と責任はあくまでも会にある。スタンプ制単発講習会は、「時々会の外をみると役に立つものが手に入ることもある」という

意味で、「外に開かれた窓のような位置づけ」と考えていただきたい。すなわち、スタンプ制単発講習会でもらったスタンプを何点と数えるかは、その会や登山学校で独自に判断していただきたい。連盟のスタンプが上位であるという考えはなく会や登山学校では足りない部分を補うために活用していただければよい。連盟は会の補助である。

教育の系統性は、会での教育でこそ保障される。実際、2016年2月に「はじめての雪山」講習会を行ったものの、登山時報で洞井孝雄さんが書いておられたとおり、目指した雪質（今回は軟雪技術、次回は堅雪技術など）が得られず約束したカリキュラムが実施できなかった。参加者からは補講講習会やおまけ山行の実施など切実な提案がなされたが、ここが単発講習会の弱みで日程の組み直しは不可能であった。これが出来るのは会での教育に他ならない。系統性の保障の点でも会での教育が本命である。

中川の願いとして、スタンプ制単発講習会で会員の系統的教育をやらうと考えないでいただきたい。単発は単発であって非系統的である。そこを間違えないで、有意義に使い分けていただきたい。

(4-3) 今後の課題を箇条書きで記す。

- ・スタンプはある水準の教育を受けたあるいは身につけた証明である。この水準について今後の問題は、(1)水準をどう設定維持するか、何年有効か。(2)全国水準の策定：Steve Long 氏と討論したところでは、リーダーの水準を英国全体で策定しさらに消防・警察・軍とも共有してオーサライズすることにより個々のリーダーの法的責任が問われたさいの対処を容易にすることを考えているとのことであった。(3)Validation：Steve Long 氏はスタンプを一度押して認定したリーダーの現状水準について定期的に Validation を行い再認定を継続しているとのことであった。大阪府連の統合初級アルパインリーダー学校でも同じ取組みを考えており、今後の展開が求められている。

- ・労山大阪府連第 54 回総会では、30 科目以上が候補としてあげられた。

登山と読図入門 登山と読図実用 カシミア実用 夏山気象入門 夏山気象実用 冬山気象入門 冬山気象実用 ハイキングの計画入門 ハイキングの食事入門 夏山の装備入門 夏山の装備実用 冬山の装備入門 冬山の装備実用 遭難事例解析と克服入門 遭難事例解析と克服実用 パーティー論リーダー論入門 パーティー論リーダー論実用 山行記録の書き方入門 山行記録の書き方実用 登山概念図ルート図作成入門 登山概念図ルート図作成実用 登山のトレーニング入門 海外登山高所登山入門 応急手当入門 テーピング入門 沢登り入門 労山と大阪府連の歴史 山スキー入門 制動確保実技 雪山での確保実技 お助け4点セット実技 はじめての雪山技術 など

これらのうち、「制動確保実技」、「はじめての雪山」、「お助け4点セット」はすでに実施されている。「登山とトレーニング」、「パーティー論リーダー論」も新規に必要であろう。その他の科目も含め、これらをスタンプ制単発講習会の科目にするのか、各委員会部会が開催する委員会講習会として実施するのか、今後の検討が求められている。

ご活用下さい 教育遭対部 HP <http://osaka-rousan.com/kyouikusoutai/>

メール owaf.kyouiku.soutai@gmail.com

ご加入下さい 労山大阪メーリングリスト OWAF-ML お申込みは GEF05077@nifty.com